

# 小施策評価シート (平成 28 年度実績評価)

施策コード	3	施策名	高齢者福祉の充実	
小施策コード	3-2	小施策名	高齢者の健康・生きがい対策の充実	
小施策 主管課等コード	066500	小施策 主管課等名	長寿社会課	
評価責任者名	吉田 一彦	内線番号	2550	
評価シート作成者名	下田 法子	内線番号	2551	

## Step 1 施策目標の達成状況

まちづくり指標	目指す 方向	単位	25年度 実績 (当初値)	27年度 実績	28年度 実績	31年度 目標値	36年度 目標値
75歳介護保険認定者数/75歳 人口	→	%	9.8	9.3	10.1	9.8	9.8
まちづくり評価アンケート調査「生きがいを持って暮らしている」と答えた高齢者の割合	↑	%	66.0	66.6	56.4	66.7	66.7

(↑：数値を上げていくことを目標とする指標， ↓：数値を下げていくことを目標とする指標， →：数値を維持することを目標とする指標)

## Step 2 小施策の全体像

小施策の概要等（構成事業は別紙ロジックモデルシートのとおり）

対象（誰（何）を対象として行うのか）	意図（対象をどのようにしたいのか）
市民	健康で生きがいを持って生活できる。
現状と課題	健康寿命の延伸や生活の質の向上の実現のため、高齢者の健康づくりと生きがいづくりに多様な支援が求められている。意欲や能力のある高齢者がスポーツや学習などの機会に参加し、これまでの経験や知識を生かして地域社会に参加していくことは、生きがいを持って生活することにつながる。元気な高齢者が、住民等を中心とした地域の支え合いの担い手として活動できるように、社会参加を促進するための方法について検討し、高齢者の社会参加を一層進める必要がある。
取組の方向性	高齢者が健康で生きがいを持ち、安心していきいきとした生活を送ることができるように、健康寿命の延伸に向けた健康づくり、スポーツや学習などの機会の設定、介護予防のための事業に取り組むほか、高齢者が自らの経験と知識を生かし、地域の人々と支え合いながら、積極的に社会に参加・貢献できる生きがいのための事業を推進する。

### Step 3 小施策指標の推移

小施策の指標	目指す方向	単位	25年度実績 (当初値)	27年度実績	28年度実績	31年度目標値	36年度目標値
生きがい活動をしている高齢者数（延べ人数）	↑	人	241,563	236,876	232,657	260,000	265,000
シルバー人材センター登録率	↑	%	1.10	1.10	1.10	1.16	1.21
老人スポーツ大会等への参加者数	↑	人	6,009	5,972	5,574	6,400	6,500

（↑：数値を上げていくことを目標とする指標，↓：数値を下げていくことを目標とする指標，→：数値を維持することを目標とする指標）

### Step 4 市民ニーズの把握

市高齢者保健福祉計画・第6期介護保険事業計画を策定するに当たり、平成26年6月～7月に実施した意向調査において「自分で健康だと思うか」について尋ねたところ、高齢者の約60%が、「健康」「まあまあ健康」、約37%が「健康でない」「あまり健康でない」と回答している。当市の平成26年度の要介護（要支援）認定率は19.8%、要介護（要支援）になるおそれのある介護予防二次予防事業対象者の出現率は2.4%であり、健康寿命の延伸に向けた健康づくりの取組が求められている。

また、同調査において「趣味はあるか」を尋ねたところ、約76%の人が「はい」と回答したが、参加している社会活動を尋ねたところ、「趣味関係のグループ」が約29%、「スポーツ関係のグループ」が約20%、「老人クラブ」が約15%、「ボランティア」が約13%という結果であった。今後、更に多くの高齢者が、趣味やスポーツ、学習などを通じて社会参加できる機会を増やし、生きがいを持って暮らすための取組が求められている。

## Step 5 役割分担分析

### 1 各主体の役割の状況

		役割の内容	役割分担比率 (%)
各主体の 役割の状況	市	活動拠点の整備, 情報提供, 市民, NPO, 地域団体, 企業等の協働による受け皿づくり, 高齢者の自主的な社会参加, 生きがいの活動の支援	40
	国・県・ 他自治体	高齢者の就業, 健康・福祉, 学習・社会参加, 生活環境等, 高齢者対策の枠組みづくりや対策の推進, 調査研究, 情報提供	5
	市民・ NPO	自立を基本に, 行政, 地域の支援を活用しながら, 支え合いや協働により, 自己の適正にあった社会参加, 社会貢献活動を通じて, 生きがいを高め, 高齢社会の一員として, いきいきした生活を送る。	50
	企業・ その他	企業の社会的使命を自覚しながら, 地域の一員として, それぞれの特性を生かした地域貢献, 高齢者の社会参加, 生きがい活動を支援する。	5

### 2 今後の市の役割の比重の方向性とその理由

- 市の役割の比重を拡大していくことを検討する
- 現状維持（現在の市の役割の比重を維持する）
- 市の役割の比重を縮小していくことを検討する

（理由）

高齢者自身が主体的に健康づくり, 生きがいづくりに取り組んでいくことが第一であるが, 効果的な介護予防事業の提供や, 元気な高齢者が地域において, 生活支援の担い手として活動できるような仕組みづくりを行うことで, 成果が更に向上していくものと見込まれており, 市は, 今後においても, 現在の役割分担を維持していく必要があると考える。

## Step 6 前年度に分析した課題・改革改善案に対するアクション

### 1 平成28年度に分析した問題点・課題に対する改革改善案

平成29年4月からの「介護予防・日常生活支援総合事業」に向けた準備作業を優先事項として、集中的に取り組む。また、同事業を検討する中で、老人福祉センターなど高齢者の身近な場所で、交流しながら気軽に参加できる介護予防事業の実施方法について、具体化する。

### 2 1の改革改善案の実施状況

(A：着手済, B：平成29年度に着手(予定含む), C：未着手または見送り)

改革改善案	具体的な取組(予定)内容	状況
介護予防普及啓発事業の拡充に向けた検討	平成29年4月に事業を開始する, 新しい介護予防・日常生活支援総合事業に向けて, 地域で介護予防に取り組む「はなまるシニア筋力アップ教室」の開催会場の増やプログラムの充実を検討する等準備事務に取り組んだ。	A

### 3 2で挙げた取組状況がCの場合, その原因

## Step 7 成果・問題点の把握

### 1 成果の把握と要因分析及び課題の設定

#### (1) 小施策の中で成果をあげた点

一次予防事業普及啓発・支援事業で実施している「はなまるシニア筋力アップ教室」は, 高齢者が身近な場所で交流しながら気軽に介護予防ができる場であり, 開催地域の拡充に伴い参加者が年々増加している。

#### 【参加人数の推移】

22年度98人, 23年度622人, 24年度994人, 25年度1,408人, 26年度1,513人, 27年度2,218人, 28年度2,126人

#### (2) 成果をあげた要因

- ・ 教室では, 運動機能の向上を目的とした全身ストレッチや筋力アップ体操を行う。高齢者の増加に伴い, いずれの地域でも一定のニーズはあるものと推察される。
- ・ 自分が住む地域の身近な会場で実施されることにより気軽に参加することができている。

#### (3) さらなる成果向上に向けた課題(課題がある場合に記載)

はなまるシニア筋力アップ教室は, 平成27年度から4会場で実施しているが, 今後, 教室の実施会場を増やしていくことで, 更なる成果向上が期待できる。平成29年度4月から始まる, 新しい介護予防・日常生活支援総合事業の実施に併せて, 事業の拡充を検討する必要がある。

## 2 問題点の把握と原因分析及び課題の設定

### (1) 小施策における現状の問題点

介護保険法の改正に伴い、平成29年度以降は、高齢者が誰でも参加できる一般介護予防事業に力点を置いた取組を進めることになった。平成29年度4月から始まる、新しい介護予防・日常生活支援総合事業の実施に併せて、はなまるシニア筋力アップ教室の拡充を検討する必要があるが、現行の直営方式では職員の対応に限界がある。

### (2) 現状の問題点が生じている原因

配置されている職員の大幅な増は、今後見込めない。

### (3) 分析した原因の解決に向けた課題

事業の実施方法について、委託を含めて検討する必要がある。

## Step 8 小施策と構成事業の関係性

- 1 小施策との結び付きが弱い、もしくは他の事業と重複していると考えられる事業  
該当事業なし。
- 2 1で記載した事業についてその理由
- 3 1で記載した事業の今後の方向性（案）（縮小・廃止・統廃合等）

## Step 9 Step7, 8を踏まえた改革改善案

はなまるシニア筋力アップ教室は、民間事業者の状況について情報収集しながら、委託による実施を検討し事業拡充につなげる。